

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいあるみすまい		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8－33 (電 話) 011-596-3018		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】 (平成19年11月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 1 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費 18,000円 ・暖房費 10,000円 (11月～3月)		
敷 金	有 (40,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (40,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	4名	要介護 2	7名
要介護 3	4名	要介護 4	2名
要介護 5	1名	要支援 2	
年齢	平均 78.9 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院 さくら歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設2年目を迎え、札幌市の南端に位置し自然豊かな環境の中にある事業所である。建物内には季節の装飾が施され、家庭的でいきいきとした寛ぎ感がある。方針である「愛情、個性の尊重、利用者の目線での介護」の実践に、運営者および職員は熱心に取り組んでいる。利用者は、楽しみごとやできることを日々行い自分のペースでゆったりと過ごしている。共用空間には、温かな心の交流、信頼感が伝わってくるような会話や、笑い声が聞こえていた。医療機関との協力体制も充実しており、看護師や栄養士による健康管理や医療サポートなど、利用者の安全、体調管理に丁寧に取り組んでいる。地域密着型サービスとして、理解と協力が得られる地域住民に支えられ、当地にあって存在感ある事業所として運営されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	改善事項であった継続的研修は、外部研修の機会を確保し内部研修の充実も検討され積極的に改善に取り組んでいる。緊急時対応は、常勤看護師による講習を実施しており、定期的に緊急時における実践的訓練を今後も重ねる事が望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
	リーダー会議において検討されている。細部にわたっては全ての職員で共有認識を持ち、自己、外部評価結果を踏まえて、目標を立て、計画的改善に向けての取り組みを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
	家族、地域の代表、包括支援センターの職員、関係者がメンバーで開催されている。事業所の概要、状況説明のほかそれぞれの立場からのアイディアや意見が出され自由な話し合いの中で質の向上への検討がされている。会議を活用して、災害時における地域ぐるみの協力体制などの取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
	家族の訪問時に、利用者の暮らしぶりを報告しながら、意見や要望などが話しやすいよう雰囲気作りに努めている。意見箱も設置されているが、今後さらに家族からの意見や要望などを引き出すための工夫を期待する。毎月の通信のほか、金銭管理報告、状態変化時の密な報告もなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
	職員と利用者は、地域の一員として町内の草刈や清掃、夏祭りに積極的に参加している。事業所の納涼祭には、備品を借りたりと地域との双方向の密な関係が築かれている。また、事業所の菜園作りのお手伝いやおすそ分けなど、近隣の人達との温かなお付き合いが深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所独自の理念のほか、職員間で話し合いの上具体的な介護指針を掲げ、日々のケアサービス提供に努めているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しが行なわれていない。	○	近隣住民との関係性は良好で、地域の中で存在感ある事業所として運営されている。更にグループ事業所における地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、理念の中に言葉として盛り込むなどの見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の見やすい場所に理念および介護指針を掲示しており、理念の達成に日々努力している。日常介護場面において、理念に繋げての職員間での共有がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内の草刈や清掃に積極的に参加協力し、地域の夏祭りにも出掛けている。また事業所の納涼祭には、町内会のテントの借し出してもらったり、近隣住民との交流も多くあり地域の人々との双方向の関係が深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の結果については職員間での共有が図られている。今回の自己評価は、事業所内のリーダー会議において話し合い、検討されているが全職員での共有に不足感がある。	○	自己、外部評価結果を踏まえて、評価の意義についてさらに理解を深め、事業所全体で共有しながら目標を立て、計画的な改善に向けての取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では地域や家族の代表、包括支援センター職員、事業所関係者などのメンバーで開催している。内容は、事業所からの概要、状況説明のほかそれぞれの立場からの自由な話し合いが行なわれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区が主催する講習会に参加している。また、グループ事業所管理者会議に出席し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月行事などの写真を掲載した事業所便りを送付している。利用者の暮らしぶりや心身の状況は、面会時の会話などで伝えられている。定期的に月に1度、金銭管理について報告している。状態変化時には、その都度密に連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には意見や要望など話しやすい雰囲気作りに努めている。内部、外部の苦情相談窓口を明示や、玄関先には代表者宛の意見箱も設置されているが現在までに投函はない。	○	家族からの意見や不満、苦情の収集は事業所運営の質を高める点で重要な事であり、職員全体でその汲み上げのスキルを学び、アンケートなどの工夫も行ない運営に反映させる体制作りの取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員の移動はあるが、引継ぎの徹底や状況を見ながら新職員へのフォローを行ない、できる限り利用者への不安や戸惑いなどの軽減に配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じた外部研修に参加し、資料等の共有化を図っている。事業所内においては、O J Tを活かし日常介護場面での取り組みが行なわれている。前年の外部評価の結果から、改善に向けて取り組んできており、今後ロールプレイなどの内部研修の充実も考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人系列のグループ事業所とは、管理者など一部職員の交流は行なわれているが、他のグループ事業所と交流する機会は持っていない。	○	法人の他グループ事業所の職員間交流のほか、地域のグループ事業所との学習会や相互訪問などの交流を通して、ネットワーク作りや職員育成、サービスの質の向上に活かす取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居もあり、事業所から面会に向いて情報収集や本人との関係作りに配慮している。本人や家族も事業所内の見学に来てもらい、場の雰囲気を知ってもらう機会を作っている。また、利用当初は十分なサポートを行ない、利用者本人の安心や納得に繋がるサービス開始に調整を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的に介護するのではなく、利用者と一緒に家事やレクリエーションなどを行ない、人生の先輩からその技を教えてもらい、人に対する接し方や気遣いなども学ぶ事も多く、共に過ごす者として支え信頼しあう関係性を重視した支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの思いや、希望の把握に努力している。日常の会話や一対一での対話や関わりで、また困難な場合はミーティングなどで検討し、利用者本人の意向を尊重し日々のケアサービスに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の記録を基に、日常的な意見交換やアセスメント、カンファレンスを行なって職員の気づきを集約し、利用者や家族の意向も盛り込んで検討を重ね個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状態により3ヶ月、6ヶ月毎の見直しを実施している。状態変化や必要に応じてカンファレンスなどで話し合い、現状に即した見直しを行ない作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じて、通院送迎などその時々で柔軟な支援をしている。医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や歯科の協力医療機関による訪問診療のほか、利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行なっている。看護師が常勤しており、体調管理、状態変化に適切な対応を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化における事業所としての対応の指針が作成されている。現在、看護師による事業所内で可能な医療支援を行なっている。	○	利用者の重度化を見据えながら、医療機関との連携や家族などの意向の把握、また職員間等での方針の共有など、事業所としての現状や限界を踏まえて、関係者の意識統一への取り組みを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報も利用者、家族の同意を得ており、書類なども保管場所を決めている。日々の関わりでは、親しみはあるが敬意ある対応を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムへの配慮や事業所の決まりごとはあるが、ゆったりと時間をかけて食事など一人ひとりのペースや思いを大切に、その日の状態や希望に合わせ、できる限りその人らしい暮らしの支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりのできる事や楽しみを見出し、見守りながら一緒に食材の刻みや配膳などを行ない、菜園で収穫した野菜が食卓に上る事もある。食事の際は利用者と同じ食事を取り、さりげない食事支援を行っており穏やかで楽しい雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設定しているが、利用者の身体状況や希望により柔軟に対応している。夜間の希望は無く、現在は午後の時間帯の入浴になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や野菜作り、調理補助、カラオケ、またタバコや特定日の飲酒など利用者の得意とすることや楽しみや気晴らしの機会も多くあり、利用者の状況を見ながら工夫し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や果物狩なども計画、実施されている。玄関前のベンチでの日光浴や散歩、車での買い物や近隣の足湯に出掛けて、戸外に出での気分転換の機会を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず夜間のみ施錠している。ユニットの入り口にはドアベルの設置があり、職員は利用者の様子を見守りながら動向の把握を行なっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	10月に地元の消防署の協力を得て、利用者、職員が参加しての消火、避難訓練を実施している。	○	運営推進会議を活かして、地域住民の協力を得られるような働きかけや、夜間などの様々な災害を想定した実践的訓練の定期的な実施に取り組むことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所内に栄養士がおり、栄養バランスやカロリーを考えた食事を提供している。利用者個別に食事や水分摂取量を把握し、一人ひとりの身体状況や好み、習慣に応じた食事支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓辺にはソファが設置され、畳スペースも設けられ、利用者はそれぞれで寛いでいる。食事時の音楽、また陽光、室温や換気も適切に調整されている。皆で製作した季節の装飾が施され、ゆったりとして家庭の延長としての温かな落ち着ける空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ馴染みの家具などが持ち込まれ、家族と共に飾ったクリスマス飾りなどがあり、個々の好みに応じた環境の中で利用者本人にとっての心地の良い居場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。